

<p>【技術の名称】 スマートパイルヘッド工法（場所打ち杭用） -鋼管コンクリートを杭頭接合部に用いる半剛接 合法-（改定）</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第10-04号 改 性能証明発効日：2013年12月3日</p> <p>【取得者】 株式会社大林組</p>
--	--

【技術の概要】

本技術は、場所打ちコンクリート杭において、杭主筋を基礎に定着させず、杭直径よりも小さい断面の鋼管コンクリート部を介して、杭と基礎を接合する工法である。本技術では、杭上面から鋼管上面までの間に気中コンクリートを打設することによって、鋼管コンクリート部を構築し、その間を杭頭接合部と呼んでいる。また、設計応力に応じて、鋼管コンクリートの下部に内側フープおよび鋼管コンクリート内部に芯鉄筋を配置することになっている。本工法によると、杭頭部の固定度の低下に伴い、地震時に生じる杭頭部の損傷を低減させることができる。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第10-04号（2010年5月14日）

改定：GBRC 性能証明 第10-04号 改（今回）

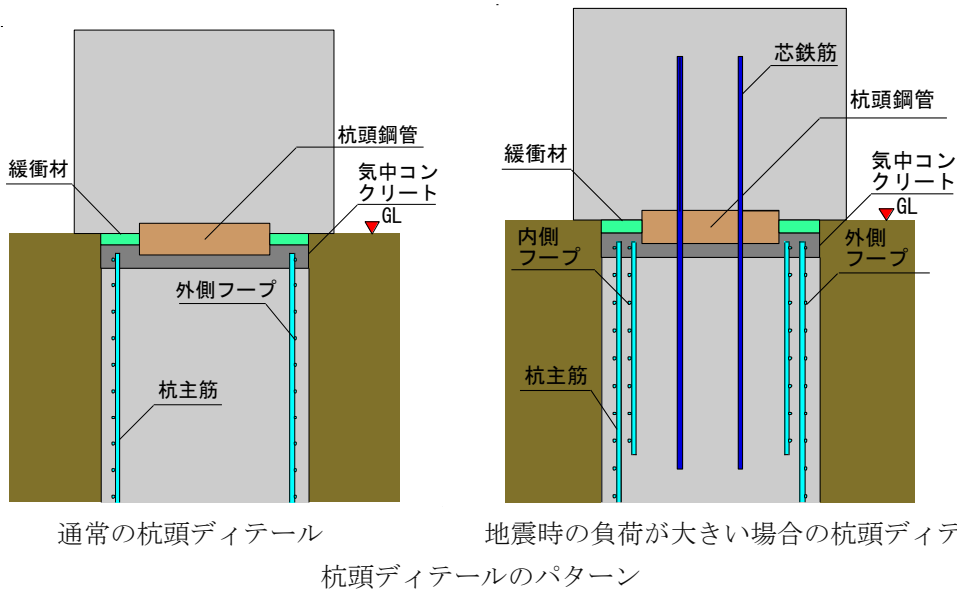
- ・技術の名称に、場所打ち杭用、を追加
- ・杭頭接合部の許容せん断耐力算定式を変更
- ・基礎のせん断設計が省略できる条件を追加

【技術開発の趣旨】

従来工法による場所打ちコンクリート杭と基礎との接合部は、地震時に発生する曲げモーメントに対処するために、過密配筋となることが多く、配筋施工が難しい。本技術は、これらの問題の解消を意図して開発されている。

【性能証明の内容】

申込者が提案する「スマートパイルヘッド工法（場所打ち杭用）設計指針」および「スマートパイルヘッド工法（場所打ち杭用）施工指針」に従って設計・施工された杭頭接合部は、同設計指針で定める長期許容耐力、短期許容耐力および終局耐力を有する。また、杭頭接合部の回転剛性は、同設計指針で定める方法によって評価できる。



【本技術の問合せ先】

株式会社 大林組 技術研究所 担当者：米澤健次
 〒204-8558 東京都清瀬市下清戸 4-640

E-mail：yonezawa.kenji@obayashi.co.jp

TEL：042-495-1092 FAX：042-495-0904